

## 特集：東洋英和幼稚園100周年（2）

### 「カナダ・メソジスト教会の保育者養成と東洋英和幼稚園の開園」

#### —女性宣教師の伝道と幼児教育—

中村 早苗

#### はじめに

東洋英和幼稚園100周年について歴史的なことを踏まえて書くようにと機会を与えられたのは、私が山梨英和学院中学校・高等学校から東洋英和女学院短期大学保育科に学び、幼稚園での実践の後、大学院で教育史を専攻したことからだと思う。

1978（昭和53）年に保育科に入学した私は六本木の校舎で学び、東洋英和幼稚園へは小児栄養の実習で2階調理室、音楽リズムの授業で楽器のあるホールへ通った思い出がある。卒業研究（ゼミ）では「ちびくろサンボ」のオペレッタに取り組んだ。台本だけでなく、構成、作詞・作曲、ダンスなど保育科での学びを総動員して仲間と創り上げたオペレッタを、担当の芝恭子教授は褒めて下さり、東洋英和幼稚園の子どもたちの前で発表する機会を与えて下さった。子どもたちの真剣な表情と反応によって、卒業を前に保育者として成長することが出来たなつかしい思い出である。

このように幼稚園の教育と保育者養成は幼児教育にとって車の両輪といえる。そこで、保育科の前身である上田保姆傳習所の開設と東京への移転、東洋英和幼稚園の開園についてカナダ・メソジストの女性宣教師の働きから辿ってみたい。

#### 1. 三つの英和女学校と上田保姆傳習所

「どうして東洋英和の保育科の前身が長野の上田にあったのだろうか？」という疑問は在学中から持っていた。また、私が奉職した青山学院幼稚園の南澤志げ主事から、ご実家は長野・善光寺で蕎麦粉店を営むクリスチャンの家庭であったこと、東洋英和女学校附属幼稚園師範科卒業後に奉職された長野市の旭幼稚園と上田市の梅花幼稚園はカナダ・メソジストの女性宣教

師が創立した歴史ある幼稚園であると聞いていた。深町正信院長はこの時の教え子であったという。このように長野でも女性宣教師たちが熱心に伝道や幼児教育を実践していたのに、なぜ静岡・山梨のように英和女学校が開校されなかったのかという疑問も抱いていた。そこで、この二つの疑問について整理してみたい。

塩入隆氏によると<sup>1</sup>東京・静岡・山梨で英和女学校を運営していたカナダ・メソジスト教会は、長野市でも女学校の設立を計画した。長野教会の橋本陸之牧師は1897（明治30）年5月の年会で長野に女学校を設立する構想を提案、カナダ婦人伝道会社（以下婦人伝道会社とする）はこの提案を了承し、同年11月にミス・ハーグレーブとミス・ランブリーの二人の宣教師を長野市に派遣した。二人はすぐに女学校設立のために英和女塾を始めたが、1895年の「高等女学校規程」によって女学校の制度が整備されつつあり、静岡（1887年）や山梨（1889年）の英和女学校のように県の認可が簡単には得られなかった。また、長野市は江戸時代の善光寺町に明治時代になって長野県庁が出来て近郊の人々が移り住んだので、士族や地主が中心となった地域社会は形成されず、有力者は善光寺門前町



上田市 旧宣教師館（元上田保姆傳習所）

（上田市によって改修・移築され3/21～11/30の土・日・月・祝日（9～16時）のみ見学できる。  
〒386-1211 長野県上田市下之郷812-8 Tel.0268-39-0548）

の旅館主や商人であり、大商人は善光寺の寺侍を勤めた家柄やその縁者だった。静岡や山梨では地元の実業家や教育界の人々が女学校に関心を持って学校の理事となり、生徒を集めて金銭の援助もしてくれたようにうまくはいかなかった。結局、宣教師の働きは実らず、1899年の「高等女学校令」と学校における宗教教育を禁じた「文部省訓令第12号」によって英和女塾はその息の根を止められてしまった。

女学校設立は難航していたが、当時長野市には幼稚園がなかったため幼稚園の設立の要請が教会員よりミス・ハーグリーブになされた。宣教師の中に幼稚園保姆の有資格者がおらず難色を示したが、教会員の強い勧めにより婦人伝道会社としては最初の旭幼稚園が1898年、日本メソジスト長野教会（現日本基督教団長野県町教会）の会堂を園舎として始められた。1903年には県の認可を受けている。旭幼稚園の保育が軌道に乗り始めると、日本メソジスト上田教会（現日本基督教団上田新参町教会）の教会員が視察に訪れ、上田でも幼稚園を開くよう宣教師に要望したことから、1900年、ミス・ハーグリーブらが週三日出張して幼稚園を始めた。1902年に県の認可を受け、1903年に婦人伝道会社は洋風の園舎を建設して梅花幼稚園と名づけた。1904年には幼稚園に隣接して宣教師館<sup>ii</sup>を建てている。

この二つの幼稚園の開設は女性宣教師たちに希望を与えた。ミッションの女学校には子どもを出さない人々が幼稚園には子どもを出すからである。園児の母親のための「母の会」を組織し、学習や奉仕の場、女性宣教師による聖書研究などを展開した。伝道の困難な地域における幼稚園の経営は、伝道の非常に有効な手段でもあった。以後、婦人伝道会社は三英和女学校地域および富山、石川、福井の各県に幼稚園を設立している。

幼稚園は伝道のためにも重要であったが、資格を持つ保姆の確保は困難だった。そこで、施設が最も整っている上田の梅花幼稚園において保姆養成が計画されたのである。

## 2. 上田保姆傳習所の教育と

### 東京・麻布への移転

1905（明治38）年9月、婦人伝道会社の宣教師ミス・デウォルフが二人の学生を伴って上田に赴任し保姆の養成を開始した。梅花幼稚園を

実習園とし、学生は東京・静岡・山梨の英和女学校から募集した。午前8時半から9時半まで音楽や聖書を学び、その後は幼稚園で実習、午後1時から5時まで授業が続けられた。校舎はなく宣教師館のパーラーで授業は行われた。1907年6月、二年間の学びを経て二人が卒業した。この未認可の学校の卒業式に長野県知事大山綱昌が列席して祝辞を述べ、学務課長、県主席視学も随行したことから上田保姆傳習所は社会的に認知され、翌1908年に正式に認可された。1909年にはミス・デウォルフが5年間の任期を終えて帰国、ミス・ドレークが所長として赴任した。

1919（大正8）年7月、上田保姆傳習所は廃止され、これを引き継いで「東洋英和女学校附属保姆養成所」が東京に設置された。その理由についてミス・ドレークはJKU（日本幼稚園連盟）<sup>iii</sup>のANNUAL REPORTで以下のように報告している。（芝恭子訳）

今年私たちの活動で特記すべき事項は、上田から東京へ養成校が移転することである。この数年来、この件は私たちにとって懸案事項であったが、さまざまな理由で1年また1年と先送りされてきた。今や手続き完了の状況となり、学寮のために、よい建物も確保された。私たちは9月に移転し、養成校は東京麻布にある東洋英和女学校の1学部となる。

私たちの宣教師団は近隣に2つの幼稚園を持ち、これを実習園として活用することになろう。資格を持った幼稚園教師の必要性は依然高く、この移転により、地方で得られる学生より質の高い入学者がもっと増えることを期待している。この春、9名が卒業し、13名の優れた新入生を迎えた<sup>iv</sup>。



東洋英和幼稚園開園（1914年）

次年度には、予想したとおり都会で学ぶ学生たちにとってはいろいろ有利なことがあり、東京で第一人者といわれる先生の講演や説教を聞く機会が提供されていることや東洋英和女学校には音楽部があり優れた指導が受けられるなど列挙しきれない利点があり、移転が賢明な行為であったことは疑いもない、と報告している<sup>v</sup>。

その後の校名は「東洋英和女学校附属幼稚園師範科」(1921年)、「東洋永和保姆養成所」(1944年)、「東洋英和女学院保育専攻部」(1946年)と改称を重ねた後、1950(昭和25)年4月に「東洋英和女学院短期大学保育科」となった。

### 3. 東洋英和女学校附属幼稚園の開園

東洋英和幼稚園は1914(大正3)年11月6日、東洋英和女学校創立30周年を記念して開園され、同年12月11日に認可されている。園長に就任したミス・ブラックモアは、開園の経緯について以下のように述べている。

ここ麻布の女学校で教える私たちにとって、卒業生の子どもや今いる生徒の弟妹、そして近隣の子どもたちが通うことのできる幼稚園をもつことは、長年の願いであった。同窓会と在校生は5年前に建築した体育館に建て増しをして園舎を備え、かくして私たち長年の願いが実現の運びとなったのである<sup>vi</sup>。

開園時の園舎は幼稚園のために建てられたものではなく、理想的なものではなかったが、幼稚園が開園したことによって、1919年に上田保姆傳習所の東京への移転が可能になったと考えられる。移転後の保姆養成所には単独の建物がなかったので、午前中は幼稚園での見学と実習が主な学びであったという。この時から東洋英和幼稚園は保育者養成の役割の一端を担うこと

になったのである。

では、JKUのANNUAL REPORTから1932年までの幼稚園の教育を見てみよう。

### 第16回年次報告(1922)

過ぐる年、東洋英和幼稚園は入園児数を倍にした。増員に対する十分な施設設備をもち、養成校の学生には実習するクラスがもっと必要な現状から、この増員は大変ありがたいことである。しかしながら、最も感謝する理由は、私たちの近隣の子どもたちがキリスト教幼稚園から天恵を受けていることである。子どもたちは、お金で買えるものなら何でも与えることのできる家庭から来ている。しかし私たちにはそれ以上に大切な価値あるものがあり、親はそのことに気づいているようであり、また感謝もしている。彼らはいろいろな特別活動に参加したり、先生の家庭訪問を歓迎し、喜んでキリスト教の話を聴くなどして、感謝の気持ちを表すのである。

ここでの活動で特記すべきは、子どもを毎朝送ってくる女中さんたちにバイブルクラスを週1回開くことである。婦人伝道師が2階の部屋でこの集まりを指導する。この時間は女中さんたちにとって真の天恵となっている。子どもを幼稚園へ送ってくる役目が終わり、他の学校へ移っても、何人かはこの集会に続けて出席する。先生の話によれば、1人の母親は女中さんがその会で何を学んだか、聖書はどこを勉強したか、讃美歌は何番を歌ったかと、いつも聞くのだそうである。そのようなわけで、信仰の種が蒔かれているかどうかかわからないようでも、良い地に沢山落とされていることを確かに信じている<sup>vii</sup>。(中略) Katharineドレーク



第2回卒園記念(1916年)  
後列左より:ドレーク、クレイグ、ブラックモア

### 第18回年次報告(1924)

(関東大震災後の東洋英和女学校附属幼稚園と永坂幼稚園についての報告—筆者註)

これらの幼稚園に於いては、常に師範科生が保育の助手をしていたので、彼女らの代わりをする者を探す必要があった。地震により園舎を焼失した3名の卒業生が、園舎復興まで大喜びで助けてくれることになった。長野からも翌年4月には師範科が帰り(震災後、幼稚園師範科は長野市の旭幼稚園内に一時移転した—筆者註)、すべてが順調な運びとなった。2園はかなりよい園児数をもって、10月1日に保育を

開始した。園児の中に地震で命を失った者はなかったが、卒園生だった近隣の人の息子が鎌倉で犠牲者となった。私たちが見る限り、園舎のガラスが割れ、玩具が飛散するという状態は起こっていなかった。周囲の荒れ果てた状態を見るにつけ、私たちの身の無害さは信じ難いものであった。その後、集会ホールの隅に、園庭へ抜ける新しいドアを作った。これでまた大地震があっても、園庭の最も安全なところへ通じる出口が確保されたのである<sup>iii</sup>。(中略)

Katharine ドレーク

### 第26回年次報告（1932）

1932年1月の末に、私たちは新しい園舎へ引っ越した。長い間非常に不適當な所にいたので、大きな喜びの時となった。今日私たちに日光が降り注ぐ保育室と新鮮な外気があり、どの子の健康にも大きな利点である。調理室を使うことができるので、佐伯矩博士の栄養学校から栄養士に来ていただき、金曜日の栄養指導をお願いしている。師範科の学生と母親が何人かこのクラスに参加し、大変実践的な方法で食品の価値や美味しい食事の作り方を学んでいる<sup>ix</sup>。(中略) M.M.ステープルス

宣教師たちの報告から、幼稚園における教育活動が、保育者養成だけでなく、幼児を取り巻く人々との総合的な活動となっていることを読み取ることができる。

### おわりに

東洋英和の保育者養成の始まりと東洋英和幼稚園の開園についてあきらかにすることができた。JKUのANNUAL REPORTから引用した宣教師の報告は東洋英和女学院大学の共同研究において芝恭子名誉教授が翻訳されたものであり、膨大な時間のかかる作業をしてくださった恩師に感謝するのみである。

また、個人的なことであるが、夫の実家は長野県須坂市にあり、今年の夏、須坂から山梨の実家への移動途中に上田市にある宣教師館への訪問を計画した。改修・移築された宣教師館は緑に囲まれた丘の上にあり、授業が行われたであろう2階のパーラーでは100年前にタイムスリップしたような感動を覚えた。さらに、宣教師が帰国した後の宣教師館が保存された経緯には、保姆傳習所で教鞭をとっていた三吉米熊氏のご子孫が尽力されたことを知り、宣教師の働きが上田の人々に受け入れられていたことを知る機会となった。

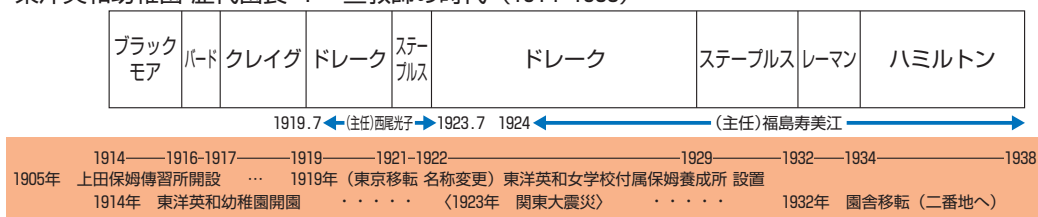
明治以降に使命を持って来日したカナダ・メソジスト教会の女性宣教師たちの働きは、女学校の設立のみならず幼児教育において大きな恩寵を私たちに与えた。多くの人々の祈りと働きによって100年前に東洋英和幼稚園が建てられたことに思いを馳せ、感謝の時としたい。

(1980年短期大学保育科卒 青山学院資料センター 草苑保育専門学校非常勤講師)

注)

- i 塩入隆『信州教育とキリスト教』キリスト新聞社 1982.12. 3
- ii p.1 写真のキャプションを参照のこと
- iii JAPAN KINDERGARTEN UNION 日本各地で幼児教育に携わっていた女性宣教師が相互の連携と資質向上を目指して1906（明治39）年に結成した超教派組織
- iv 『カナダ・メソジスト婦人宣教師が拓いた東洋英和女学院の保育・保育者養成の特性の検証 2008』東洋英和女学院大学、2009. 3. 20、87頁
- v 前掲書、91頁
- vi 前掲書、77-78頁
- vii 前掲書、95頁
- viii 『カナダ・メソジスト婦人宣教師が拓いた東洋英和女学院の保育・保育者養成の特性の検証 II 2009』東洋英和女学院大学、2012. 3. 20、26頁
- ix 前掲書、47頁

### 東洋英和幼稚園 歴代園長 1 宣教師の時代（1914-1938）



(史料室 作成)

## 〈資料紹介〉25 東洋英和幼稚園保育日誌

### 東洋英和幼稚園の旧園舎時代（1932年から1962年）の保育 —保育日誌から振り返る—

大 伴 栄 子

今年（2014年）、東洋英和幼稚園は創立100周年を迎えます。最初の園舎は、1914（大正3）年に、女学校の雨天体操場に増設した極めて質素な木造づくりでした。新園舎（現在からみると旧園舎）が建築されたのは1932（昭和7）年で、鳥居坂町2番地にヴォーリス氏の設計で伝道館・西洋教師館と共に完成しました。そして、現在の園舎が1962（昭和37）年に小学部敷地内に建てられました。

史料室の書庫には1937（昭和12）年から1989（昭和64）年までの保育日誌が、一部欠落しているものの、ずらりと並んでいます。その形式は自由記述や定められた形式に沿ったものなど様々で、帳面も大学ノート、メモ帳、一枚ずつの所定用紙をまとめたものと色々です。なかにはあまりの達筆でまた反対に走り書きで読み難いものやインクが薄れて判読しにくいものもあります。けれども、全体からは激動する時代の流れの中で繰り広げられる子どもと保育者の生き生きとした毎日が読み取れます。

創立当初の園舎は先に述べたように雨天体操場に増設されたもので、バラック建てと記されるほど質素なものでした。午前の保育が終わると午後は生徒が体操に使用していましたから、大変不便なものでした。ですから、新しく園舎が完成した時の喜びは計り知れません。引越しの日、保育主任の福島寿美江先生が感極まって涙でお祈りし、「あゝこの日、このすべては、

私共の心から永遠に消えることはないであろう」と学院『七十年誌』に記されています。（p.130～131）

新天地でどのような保育がなされたかを史料室にある一番古い保育日誌から見てみましょう。

昭和十二年十一月十日（水曜日） 秋 晴

自動車が発見会からかへって来たので、御仕事に入る。八百屋の店は発展する。久し振りに久弥さんが来た。三の組は銀杏の実をひろいに秋晴の陽に浴す。一の組は八百屋の見学。五十六名の出席。牛乳はたりず。椅子はたりずに、久し振りの天気と賑はひ。

ヒヤセンスも太陽にあてる事が出来た。庭の家も目鼻がついて来た。

十一月十六日（火曜日） 曇 晴

早朝キヨシさん池に落ちる。着物をきかへるのがいやで「しぼつて着る着る」となかなかぬぎませんでした。お家から洋服が来てから元氣よく遊ぶ。自動車完成致しました。ヤオヤの店たくさんにお野菜と果物出来ました。フミ子ちゃん久しぶりにお席。野菜物を入れるカゴを作りました。ヤオヤの店に買ひに行く準備です。

赤羽様訪問、福島。（注：福島先生が対応という意味か）

十一月二十二日（月曜日） 小雨後曇



保育日誌（表紙）



保育日誌





卒園記念 (1939年?)

後列の教員:左より長野静江、(4人おいて)小野直一園長、  
レーマン、湯浅治子、福島寿美江

昭和十四年十二月十九日(火曜日) 晴天  
朝食前にうさぎと鳩の世話をすませる。朝からトウシャパンをしたり、あわただしい。ずっと出席がへる。風邪が多い。明日沢山に出席が出来る様祈る。桃子が今日は九時にまにあった。兵隊のため、出征家族のための玩具が沢山にあつまる。あたたかい心がうれしい。午後から明日の用意に六時までかかってして居た。

万事OK。大きなクリスマスツリーも美しい。お母様方はハンケチを子供へのプレゼントを包んで下さった。与へる事のうれしいクリスマスなれかしと祈る。

☆ のし餅の換券も  
出来る。

🔔 お正月のはじまる  
知らせ。

十二月二十日(水曜日) 九時半 晴天  
めでたいめでたいクリスマス

(プログラムは左頁下参照)

金魚はチリ箱に半数入れ、鳩、花瓶、帳面。(注:冬休みに入る片付けのようだ) 二の組、額、クリスマスの絵をはる。子供たちの手でつくったのをさし上げました。御母様のサンタクロース福ちゃん驚いたようす。皆うれしさう。御母様のつくったハンケチの様々なものがたりが楽しみです。

慰問袋七、長野、桧山、小島、武田、後藤、坪野、山本に送りました。出征遺家族には玩具とのしもち一枚 二十五家族。そして青楓寮と幼稚園の小使にも一枚つつ差し上げました。うくるより与ふるは幸いなりのよいクリスマスでした。

この後、戦争はますます激しくなり、1944(昭和19)年8月に幼稚園はやむなく休園とな



くりすます 年長組 (1952年)

り、最初の園舎時代から保育に携わった福島寿美江先生が退職しました。11月に戦時保育所が開設されましたが、翌年3月の大空襲で辺りは焼け野になって保育所も閉鎖に追い込まれました。その間の保育日誌は残っていませんが、厳しい状況の詳細が宮崎千恵子(旧姓高橋)先生によって『史料室だより』No.32(1989年)に記載されています。

1945(昭和20)年8月終戦を迎え、21年6月幼稚園が再開しました。平和な時代の穏やかな保育の一日を1951(昭和26)年の保育日誌より見てみましょう。

昭和二十六年一月十六日(水)

昨日の休みに出初式に行った茂ちゃん、消防自動車の話をいろいろと面白くしてくれた。朝の時間、凧作りでいろいろたのしかった。英裕ちゃん、茂ちゃん共に自分の意見を主張して、自分一人で各々の凧を作り上げた。その自信のあること。そして、確信あるものに対しては非常に熱心に製作することを知ることが出来た。

ひでひろちゃんの凧 しげるちゃんの凧



礼拝のあとの輪の時、おもちつき、凧上げ、羽根つきなどリズムに合わせて、興味深い一時だった。クラスに入ってから、スクルトン先生から英語を教えて頂いた。久し振りの英語であったけれど子供達が以前より注意深く興味深く一生懸命であった姿をみて、本当にその成長を嬉しく思った。その後製作をした。朝の仕事の続きとかるた作りをした。お正月の思い出がかるたにも面白く絵として又言葉となって現



先生方（1960年？）  
 前列：長野彌園長、黒田成子、荒牧富士子  
 後列：長崎祐子、柳乙女子、四方裕子、福田香代子

はれた。玲子ちゃん「サザエさん」のかるたを家より持って来て、自分が読み手となり、みなが取って遊んだ。

小さいクラス、リズムがとても上手になった様に思える。全体にリズムカルであると思うけれども、特に年少組のリズムで感じた。お餅つきの新しい歌を教えて、年長組も氷滑り、スケートの新しい歌を教えた。愉快にリズムによって肩を動かし、何ともその姿は幸福に見えた。

教師会、一時頃から事務所で開かれた。まず、今学期の大きなプランを杉山先生からスクルトン先生に申し上げた。のち、来週からする今学期の大きな単元「消防」の保育案を申し上げた。不十分な所をいろいろと教えて下さり、私共にサジェスションを与え下さった。感謝である。必要な所は今一度考えたいと思う。何か話を伺っているうちにいろいろと想像してたのしくなった。出来得だけの用意をし、消防の単元に入りたい。～以下省略～

この保育日誌の表紙の裏に「美しき友の筆をばかえりみて 心に記さん新しき頁 千恵子」と書かれています。保育主任の高橋千恵子先生、宣教師のスクルトン先生の指導の下、保育者たちが心合わせて保育に勤しむ姿が伺われます。

朝の自由作業（遊び）では、子どもたちは思い思いに自分の遊びに没頭し、保育者が温かく見守り支えています。その後の集まりでは、保育者が十分に準備した指導の下で歌やリズムが楽しく展開しています。英語の学びは戦前から行われていたようです。子どもの家での経験や季節の体験を柔軟に取り入れて、幸福で豊かな一日と言えるでしょう。

高橋千恵子先生（1943年から1955年まで勤務）の後、アメリカで学びを重ねた黒田成子先生が保育主任となり（1955年から1961年）、様々な改革がなされます。詳細は『東洋英和幼稚園八十年の歩み』に記されています。（p.80～91）以下はより詳しく分析的になった1960（昭和35）年の保育日誌です。

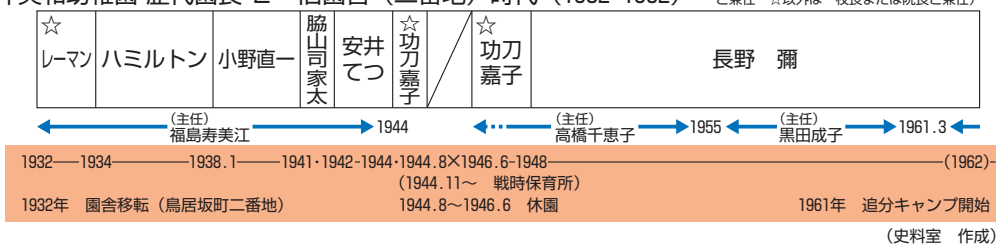
昭和35年2月4日（木） 晴れ 欠席者：弘和（風邪）

（注：クラス別に記されている。4歳児クラス）  
 9：00お菓子屋 10：50新しく作った歌を歌う  
 11：00リズム 11：30お弁当 12：15礼拝  
 自由（注：自由遊びの時間のこと）

お菓子がきれいに棚にかざってあったので、女兒はすぐ積み木をもってきて店を作った。そこにケーキ類を並べて牛乳ビンのふたをお金にし、昔牛乳ビンのふたの上にかぶせていた新しい紙がたくさんあるのでその束をおさつにして、売屋ごっこが始まった。売屋はけいこ、宏子、康子、恵美子、朋子、あおい、買手は由利栄、るみ子、佐代、弘子、典子、通宏で、□□子は売屋にまわったり買手になったりしているが、どこでもあまり歓迎されない。智子は工場でお菓子を作った。女兒全部でしているのでもとてもぎやかだ。そのうち、けいこ、やすこ、宏子が中心に「いらっしゃい、いらっしゃい、いらっしゃい、さあいらっしゃい、さあいらっしゃい、いらっしゃい」と歌い出した。そこに通宏が「ちょうだいナ」と一定のふしで買

東洋英和幼稚園 歴代園長 2 旧園舎（二番地）時代（1932-1962）

（☆印は幼稚園師範科主任または保育専攻部主任と兼任 ☆印以外は 校長または院長と兼任）



いに来た。まとめると歌になるのでそっと書きとっておき、皆に言うとかをつけて一つの曲にした。売手と買手の拍子が違うので（三拍子と二拍子）間奏を入れるとよくなると思う。

男児は時々部屋に入ってきてお菓子を買っては外に出ていった。外でワゴンの車が取れたとあって修理していた。「先生、時々お腹がすくとお菓子屋さんでお菓子を買ってくるんだよ」とポケットの中からお金を出してみせる。

お菓子屋さんごっこは十一時前まで続いた。こんなにもよくあきずにできると思う位に、同じメンバーで買ってはまた返しに来て続いていた。一学期頃にしたお店ごっこは又異なった面白さがあった。

「お店屋さん」のキンダーブックの中からパン屋さんの頁をあけてみせるといろいろ発言する。「ああいいなー、これデコレーションケーキだ」「たべたいなー」などといっている。話題はあまり変化のあるものではないが、皆が興味をもっているという点で、小さい単元活動としての材料にパン屋、お菓子屋などは適当と思った。

××子：みなに好かれる。なぜなら××ちゃんが一番可愛いからだという。従ってどこにでも行って遊んでもらえるので、時々このままでは自分からあそびをつくるのがむずかしくなるのではないかと思う。

\*×子：この頃調子が崩れて子どもっぽい。秀雄、義則と三人で自覚なしにふざけたり乱したりして、保育活動は一さい面白くないという。  
～以下省略～

より深く子どもを観察し記録しています。毎日、2、3人の子どもを取り上げ、その日や最近の様子を記しています。この時の単元は「お菓子とパン」で、子どもの創造性と保育者の創造性がうまくかみ合って、弾むような楽しさが伝わってきます。単元活動は以前からも行われ

ており、開園当初はプロジェクト・メソッドを取り入れていたと言いますから、こうしたテーマのある保育もその時々になんげつ変化しているものと思われます。しかし、基本姿勢は変わりなく、保育者の思いが先行するのではなく、子どもの興味や関心に沿い柔軟に進められています。

### おわりに

紙面に限りがあり詳しく取り上げることができませんでしたが、宣教師の先生方や短大保育科（以前は保母養成所）の先生方との連携、そこから得られる学びが保育を豊かなものへと導いています。また、日曜の礼拝や毎日の礼拝が保育の根底を支えていることは言うまでもありません。

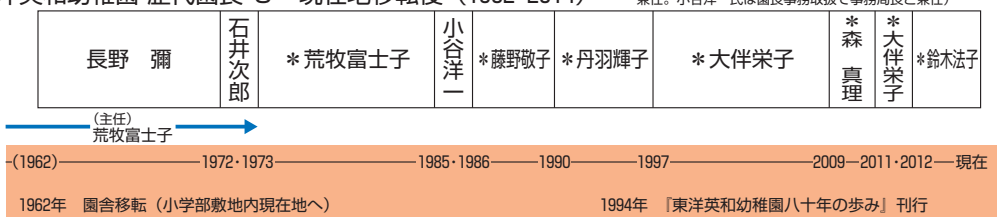
日誌は時々の保育者が交代で全体を記し、あるいはクラスごとに同じ保育者が記しています。当然のことながら、保育者によって視点が異なり、解釈の深さにも違いがみられました。しかし、全体として伝わる保育者の温かな眼差しと保育に対する真摯な姿勢、そして、子どもの生き生きとした姿と成長への力ほどの日誌からも読み取ることができました。

今、日本の幼児教育は制度が変わり、大きな転換期を迎えようとしています。しかし、本稿でみたようにどんなに社会が変化しても神様に信頼をおき、一人ひとりの子どもを尊重し、自由の中で創造性を育み、周囲の自然と社会に目を向ける保育は、創立100年を経た今も脈々と続いていることを深く覚えます。神様の栄光を現わす幼稚園としてさらなる発展を心からお祈りしています。

（前東洋英和幼稚園園長）

### 東洋英和幼稚園 歴代園長 3 現在地移転後（1962-2014）

（園長名のうち\*印は専任園長。長野彌・石井次郎氏は院長と兼任。小谷洋一氏は園長事務取扱で事務局長と兼任）



（史料室 作成）

## 〈思い出の先生がた〉28 ミス・スクルトン

### 保育科と梅花幼稚園のスクルトン先生

#### 保育科で与えられた大事なこと

東洋英和の短大保育科を卒業して60年を経た今も、在学中に先生から二つの大事なことを与えられたという思いは、消えず私の中に有ります。

その一つは教会に導かれたことです。先生は未信者の私が保育を学ぶこの時に、神に導かれるように願っている、とおっしゃいました。私は先生のことばに背中を押されるように鳥居坂教会へ行き、初めて教会の礼拝を経験して、日曜毎に通うようになりました。そして1952年4月13日に受洗したのです。子ども達に神のみ言を伝える時、私自身が心から信じていることの大切さを思い知らされました。

もう一つは、子ども観と保育の姿勢です。子どもがもつそれぞれの個性を大切に、子どもの自由な表現を引き出す保育を目指すことを学びました。これは、私が保育と向き合っている全ての時にとって、大切な教えになりました。

幼稚園に新任間もない頃、次の母の会でそれぞれが子どもたちの現状等の話をするようにと主任からお達しがありました。新米の私は何が語れるかと戸惑いながら、就職して日も浅く子ども達について話すことは未だ無いことを伝えた上で、自分が学んできた中から特に母親にも共有して欲しいと願うことを、子どもの絵の見方を例に話しました。決まった形を教えるのではなく、子ども達の自由な発想から出る表現を、そのまま汲み取り認めることの大切さを話したのです。後で主任から共感のことばを頂くことができました。

その後も、どの様な仕事の場に置かれても、私の中の「これでいい」という思いは、スクルトン先生の教えに依るものでした。

#### 梅花幼稚園と宣教師館の先生を偲んで

子どものころ私が通った上田・梅花幼稚園のお隣の家には、当時としては珍しい外国の人が住んでいて、それがスクルトン先生でした。私が初めて先生にお会いしたのは、実に幼児期だったのです。保育科の学生になって先生のお顔を見た時は、本当に驚きました。先生もびっくりなさり、私の入学を大変喜んでくださいま

した。

幼稚園の頃私が興味を持ったのはしかし、先生のお宅、洋館の方でした。あの中はどうなっているのかと・・・。願いが叶ったのは梅花幼稚園に就職し、2年先輩の方のご自宅が旧宣教師館で(父上が医院を開業し



スクルトン先生

ていらっしゃいました)、夏休みに誘っていただき一泊した時です。泊めていただいた部屋とダイニングルームを成程・・・と眺めました。

やがて結婚して関西住まいとなったある夏のこと、夫と上田郊外をドライブしていた折り、奇遇なことに、移築された旧宣教師館が目に入りました。見学が可能でしたので全体を隈無く見て歩きながら、ここで生活なさった在りし日のスクルトン先生を重ね合わせて、思いを新たにしました。

文 山田 房子

(1953年短大保育科卒 旧姓 小菅)

#### Muriel Fern Scruton 先生

##### —略 歴—

- 1899年10月27日 カナダ・オンタリオ州ブラントフォードに生まれる  
ハミルトン師範学校、エバンストン第三国立教育大学などに学び、6年間教職につく
- 1925年 来日 東洋英和女学校に着任
- 1926年～ 山梨英和、静岡英和、ついで長野県の幼稚園園長を歴任(～1941年)
- 1941年 カナダ帰国 トリニダードにて幼稚園および初等教育に従事
- 1949年 再来日 東洋英和女学院勤務(短大保育科 ～1958年)
- 1958年 静岡英和に着任(～1964年)
- 1964年 帰国
- 1980年12月28日永眠(81歳)

## 主な寄贈資料

- \* Miss M. Cartmell Letters (Mr. Don Crossより)
- \* Miss M. Cartmell 画像の印刷用銅版 (Ms. M.F. Whiteleyより)
- \* 卒業證書 (1955年高等部)
- \* アルバム、卒業アルバム (1983・2000・2002)、卒業50周年記念アルバム (1950年保育専攻科卒)、「楓」卒業50周年記念 (1953年高等部卒)
- \* プリント写真 (阿部ゆひ氏など) 6枚
- \* 2014年高等部卒業記念DVD, CD
- \* 27th Christmas Concert DVD
- \* 18th Handbell Festival DVD/Blue-Ray
- \* 故中野登美子氏 (元中高等部教諭) 遺品: 楓の形のペンダントヘッド10種、徽章、表彰状、プリント写真18枚
- \* 「東光」創刊号 (1955.12.25発行)
- \* 二番地にあった暖炉の火かき棒などのセット
- \* マウスパッド、コインケース (小学部)
- \* 団扇 (2006-2014中学部オープンスクール作品)
- \* 「モンゴメリと花子の赤毛のアン展」用DVD
- \* 「Anne・アン」CD
- \* 『村岡花子エッセイ集 想像の翼にのって』『同 腹心の友たちへ』『同 曲り角のその先に』『村岡花子童話集 たんぽぽの目』『リンパロストの乙女』上・下『文芸別冊村岡花子』『村岡花子の世界』以上河出書房新社
- \* 『赤毛のアン』三笠書房 (若草文庫) 初版
- \* 村岡花子訳書: 『そばかす』『リンパロストの乙女』『風の中のエミリー』『雨に歌うエミリー』『ナンシー姉さん』以上秋元書房、『少女パレアナ』『パレアナの青春』以上角川文庫、『エミリーの求めるもの』『エミリーはのぼる』『果樹園のセレナーデ』『丘の家のジェーン』『パットお嬢さん』以上新潮文庫 (1957~'70刊行)
- \* 『ごきげんならいおん』村岡花子訳 福音館書店
- \* 『友情論』村岡花子著 湘南書房 (1947年刊)
- \* 『赤毛のアンの世界』M.ギレン著 新潮文庫、『赤毛のアンに学ぶ幸福になる方法』茂木健一郎著 講談社文庫、『The World of "Anne of Green Gables"』マクミラン・ランゲージハウス
- \* 『村岡花子展』(図録) 山梨県立文学館
- \* 『白蓮自叙伝 荊棘の実』柳原白蓮著 河出書房新社
- \* 『記録一少女たちの勤労働員』改訂版 西田書店
- \* *Women in God's Army*: Andrew M. Eason, Wilfred Laurier Univ.
- \* 『人は何を祝い、なぜ歌うのか 典礼音楽の神学的考察』菊池泰子 (高等部卒) 共訳 聖公会出版
- \* 『内藤みどり著作集』内藤みどり (高等部卒) 著 山川出版社
- \* 『カナダ・メソジスト教会の伝統』深町正勝著 更新伝道会 (ウエスレー研究会パンフレット)
- \* 『グローバリゼーションとリスク社会』岡本浩一 (大学教授)、P. スイッペル (大学教授) 編 春風社
- \* 『歌集 いのちの四季に』吾妻國年 (副院長) 著 教文館  
その他 他大学年史・紀要多数

## 主な移管資料

- \* “MISS MARTHA CARTMELL” ファイル、  
「センテナリー教会訪問」1999・2000アルバム  
いづれも W. Irwin 牧師製作
- \* 故富岡正男氏 (元中高等部教諭) 遺品: 楽譜・台本等 多数  
中高等部音楽科研究室より
- \* 提灯 2個 (東洋永和女学校時代のもの)、  
鐘 (手持ちで鳴らすもの) 小学部より

## 購入資料

- \* 『「モンゴメリと花子の赤毛のアン展」Official Book』村岡花子篇・モンゴメリ篇 (株) ダブル
- \* 『スウ姉さん』村岡花子訳 河出文庫
- \* 「花子からおはなしのおくりもの」村岡花子朗読CD ユニバーサルミュージック
- \* 『柳原白蓮』西日本新聞社、『娘が語る柳原白蓮』『白蓮』以上宮崎路夢著 河出書房新社



小学部より移管された提灯、提灯の入っていた箱、鐘

### 〈お知らせ〉

史料室では、学院の歴史や学生生活の様子を伝える資料、写真、記念品等を収集しています。ご家庭にあってご不要のものがありませんでしたら、ご寄贈いただくと幸いです。また、卒業生および教員の著作も収集しています。

お問合せ先は下記のとおりです。  
東洋英和女学院史料室 (法人事務局内)  
Tel 03-3583-3166 (直)、03-3583-3325 (代)  
Fax 03-3583-3329 (直)  
E-mail: archive@toyoeiwa.ac.jp